

法遍寺 から大切な 皆様へ

2019年2月1日

日蓮正宗 年間方針

勇躍前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成

勇猛果敢の折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏推進

誓願達成

罪障消滅

② 講中一結で御講参詣

異体同心の団結

折伏成就

③ 登山参詣で育成推進

心身浄化

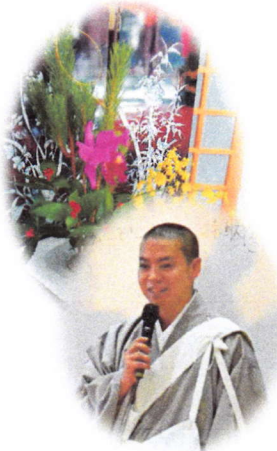
功德无量

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2019年1月9日に赴任された行輝御導師さま、13日の御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

新池御書(御書1457頁)には「雪山の寒苦鳥」の譬えが説かれています。雪山に住む「寒苦鳥」は巣がなく、晩になるとその寒さから夜が明けたら必ず巣を造ろうと心に決めます。しかし夜が明けると朝日がさし、その温かさから一日中遊んで巣をつくることを忘れ、その繰り返しで一生を終えるというお話です。私たちには輪廻の法則があり、一生の間につくった業によって色々な境界に生まれることが繰り返されます。過去を振り返って、ああ人間界にいた時にもっともっと善根を積めばよかった、とならぬよう、人間界に生まれた果報に感謝し、仏の教えのままに、正法たる大御本尊に対する信仰修行のもと、折伏の大善をなし、現世安穩・後生善処の大功德を享受させて頂きましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ

「昭和52年教義逸脱問題」の収束はどうだったのか。当時、この問題に対し宗内僧侶を中心として学会批判の声が全国的に広がり脱会者が続出し、池田大作は創価学会の崩壊を危惧し、日達上人に謝罪し事態の収束を願い出ました。昭和53年6月30日、教義逸脱に関する訂正文が発表され、さらに学会による御法主の許可のない本尊模刻問題が発覚し、同年9月、学会は七体もの模刻本尊を総本山に納めました。そして同年11月17日、学会は2000名の幹部によるお詫びの登山をし、大会の席上、池田は宗門に対し謝罪の言葉を述べたのです。その後池田は責任を取り、翌年4月、創価学会会長と法華講総講頭の職を辞任し、これを受けて日達上人は、同年5月、学会問題の収束を宣言されたのです。このような歴史的事実があつての今、学会がさらに日蓮正宗の信仰から逸脱しているかを知ってください。

③ 正しい宗教に関心のある皆様へ

カレンダーの日付の欄に、六曜といって先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口からなる一種の占いがあります。室町時代に中国から伝わったものですが、旧暦に当てた一つの占いです。江戸時代まで「友引」は「共引」といい、本来の意味は、「共に引きて勝負なし」、つまり良くも悪くもない日の意であつて、今日的な意味合いはありません。「仏滅」も「物滅」からきており、仏教とはなんの関係もないどころか、単なる語呂合わせに過ぎません。これらを根拠に吉凶を占うのではなく、何よりも大切なことは正法を信仰し善因を積み重ねていくことです。これこそ永遠の幸福を築く最高の方途なのです。正法たる御本尊を知って頂くため、この法遍寺においでください。お待ちしております。